

京大ウィークス2019 阿武山観測所『特別公開』

11月9日(土)・10日(日) 10:00~16:00

参加費無料／施設公開『自由観覧』

特別講演:申込み不要(各回定員80名)



近代化遺産のレトロな建物の中に
地震サイエンス史を物語る歴史がひろがる
近代測量一五〇年記念・阿武山観測所が
所蔵する歴史的な測量機器を初公開

会場:京都大学阿武山観測所(送迎車運行)

お問合せ:weeks@abuyama.com

ホームページ:http://abuyama.com



特別講演:『平成30年大阪府北部地震その後』西館2階セミナー室
余震観測結果や地震によって見えてきた防災の課題など、地震学と防災学の
両面から迫ります。

11月9日(土) 10:30~11:20	『地震を観測することの意義』 京都大学防災研究所・阿武山観測所長 飯尾 能久 教授 大地震が起こると余震が必ずと言って良いほど発生します。余震は最もよく知られている地震現象の1つですが、実は、なぜ起こるのかがよく分かっていません。余震は、大地震の断層の近傍で発生するので、大地震についての色々な情報を含んでいます。余震を詳しく調べることにより、地震の秘密の解明につながると期待されます。
11月9日(土) 14:00~14:50	『大阪府北部地震の余震を観測する』 京都大学防災研究所 片尾 浩 准教授 地震観測は人里離れた静かな場所で行うのが鉄則です。大阪府北部地震は大都市高槻のまさに直下で起きました。余震を詳しく観測することは重要ですが、震源域の直上で行う必要があるため、地震学の常識を超越した前代未聞の『都市型』観測となりました。阿武山スタッフも含めた地震研究者たちの悪戦苦闘(?)を紹介します。
11月10日(日) 10:30~11:20	『大阪府北部地震の被害の特徴と防災の課題』 関西大学社会安全学部 越山 健治 教授 昨年、大都市大阪の北摂を襲った大阪府北部地震は、現代生活を営む私たちにさまざまな投げかけをしています。地震動という自然の営みと、人間が作り上げた都市は、これからのどのように付き合っていくのか、地震被害の課題検証を踏まえて論じます。
11月10日(日) 14:00~14:50	『大阪府北部地震後の高槻における取り組み』 関西大学社会安全学部 城下 英行 准教授 大阪府北部地震の後に被災地ではブロック塀の撤去や避難所開設訓練等、防災に関するさまざまな取り組みが行われています。本講演では、災害の教訓を伝えるために高槻市内の中学校で実施している防災教育の取り組みについて紹介します。子どもたちを含め多様な人々が協力して防災を進める意義についても考えたいと思います。

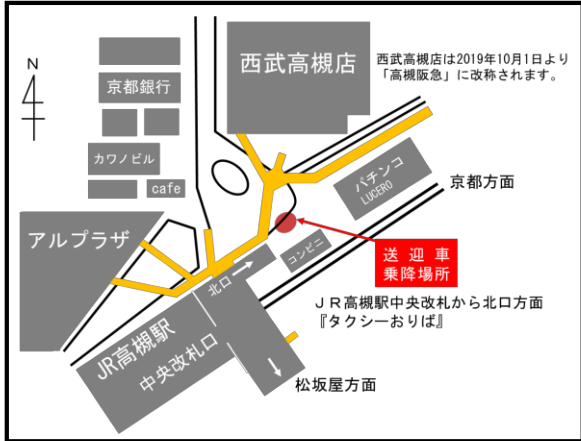


京都大学防災研究所 阿武山観測所
阿武山地震観測所・サイエンスミュージアムプロジェクト

■交通アクセス

JR高槻駅北口より送迎車を運行します。(所要約30分)／予約不要・各便定員8名

『赤字便』は混雑が予想されますので、『特別講演』参加の方はご注意ください。



時刻	阿武山観測所行	時刻	JR高槻駅北口行
09	30 40 50	09	
10	00 10 20 30 40 50	10	00 10 20 30 40 50
11	00 10 20	11	00 10 20 30 40 50
12	00 10 20 30 40 50	12	30 40 50
13	00 10 20 30 40 50	13	00 10 20 30 40 50
14	30 40 50	14	00 10 20
15	00 10 20 30	15	00 10 20 30 40 50
16		16	00

阿武山ボランティア・サイエンスコミュニケーター解説

施設公開
自由観覧

11月9日(土)
10日(日)
10:00~16:00

本館	西館
(地階) 歴代地震計・測地機器・フーコー振子 (1階) 『昭和教室』(セミナー室) / 映像・阿武山アースダイバー (2階) 測量機器・岩石磁気実験装置 (3階) 『阿武山倶楽部』-高標本展示- (屋上) 屋上展望	(1階) 満点地震計・海底地震計・高温高压実験装置・歴史的工作機械 (2階) 特別講演/展示模型・岩石標本



■観測所には売店・食堂はありません。

所在地: 〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原944
京都大学防災研究所 阿武山観測所